

第一回
大東文化大学大学院
英文学シンポジウム

日時 自 2006年11月19日(日) 午前9時30分
至 2006年11月19日(日) 午後5時00分
会場 大東文化大学地域連携センター
(大東文化会館)

板橋地域連携センター
〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1
(TEL) 03-5399-7350
(FAX) 03-5399-7850
(URL)<http://www.daitou.ac.jp/exten/top.html>

大東文化大学大学院英文学シンポジウム

第一回大会・総合プログラム

日時：2006年11月19日(日) 9時30分～17時00分

場所：大東文化大学地域連携センター(大東文化会館)

午前の部

1．受付開始 9時30分

2．開会式 9時45分

3．グループ研究発表午前の部 10時00分～11時30分

グループ1 10時00分～

テーマ：「ヴィクトリア朝小説における現実と非現実的要素 Charlotte
Brontë, George Eliot, George McDonald の作品を中心に」

長谷川有佳利、坂巻朋美、渡辺賢二

グループ2 11時10分～

テーマ：「*A Room of One's Own* とその後 Woolf と Lessing における女性
像」

山崎修平、四戸慶介

午後の部

5．ゲストスピーカーによる講演（12時40分~15時）

題目：「ポスト サフレジズム時代のヴァージニア・ウルフ」

松本 朗氏

題目：「三島由紀夫のジェンダー移行とセクシュアル・アイデンティティ。純粹男性性の希求とその心理的要因。三島由紀夫から村上春樹へ」

渡辺 美恵子氏

6．グループ研究発表午後の部 15時10分~16時

グループ3 15時10分~

テーマ：「階級への挑戦 Brontë、Hardy、Sillitoeを中心に」

橋本千春、吉武江梨、倉田綾香

グループ4 16時20分~

テーマ：”Searching for Identity: Second-Generation Asian Immigrant Authors of the US and the UK”

吉田重人、翁珠

7．閉会式 17時00分

講師：松本朗(ほがら)氏 (上智大学文学部英文学科所属)

プロフィール

米国 University of Washington 卒業（英文学専攻）。東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了。同博士課程満期退学。専門は 20 世紀イギリス小説。

[研究業績]

- 1 . 周縁性の修辞学 ヴァージニア・ウルフと人種、ジェンダー、モダニズム
東京都立大学大学院人文科学研究科 学位博士論文（2002 年 4 月）
- 2 . 追悼の物語 『めぐりあう時間たち』試論『ソフィア』第 52 巻第 1 号(2003 年)：74-94.
- 3 . Miyeko Kamiya's Reproduction of Modernist Writing Style:
Kamiya, Virginia Woolf, and the Problem of the Monstrous Voice.
Natalya Reinhold, ed., Woolf Across Cultures (New York: Pace University Press, 2004): 149-64.
- 4 . “darkness” をめぐる断章 モダニズム、帝国主義、『灯台へ』再考
『ヴァージニア・ウルフ研究』第 21 号（2004 年）：41-54.
- 5 . 「モダニズム」以後のヴァージニア・ウルフ 女性連盟、シティズンシップ、
『幕間』OBERON (英米文学研究雑誌) 第 63 号（2005 年）：73-92.
- 6 . ポストサフレジズム小説としての『歳月』
Metropolitan 50 (2006): 21-44.
- 7 . “ポスト”サフレジズム時代のフェミニスト批評
モダニティ、ナンシー・キュナード、『波』
『ヴァージニア・ウルフ研究』第 23 号（2006 年）：65-81.

講師：渡辺みえこ氏（詩人・評論家）

プロフィール

1943年東京深川生まれ。慶応大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。武蔵野美術大学油絵科卒業。横浜国立大学学術修士(超領域文化科学)。現在、国学院大学、日本女子大学（芸術、思想）他兼任講師。

[受賞]

第12回、新世紀美術協会奨励賞。第25回、新世紀美術協会文房堂賞。第1回女性文化賞（三島由紀夫論）。

[著書]

『女のいない死の楽園 供犠の身体三島由紀夫』現代書館 1997年。紀行文学
『女ひとり漂泊のインド 恵みの岸边ヴァーラーナシー』彩流社 1999年。共著
『買売春と日本文学』東京堂出版 2002年。解説「娼妓『春駒』の日記」
『女性のみた近代 森光子 春駒日記』ゆまに書房 2004年、他。詩集『声のない部屋』思潮社 2001年他6冊。『「村上春樹」と女性の恋愛史』（仮題）御茶の水書房 2007年春刊行予定。

大学院生による研究発表要旨

グループ1 (10:00~11:00)

テーマ：「『ヴィクトリア朝小説における現実と非現実的要素 Charlotte Brontë, George Eliot, George Macdonald の作品を中心に』」

長谷川有佳利(10:00)

タイトル：「『ジェイン・エア』における現実とロマンティック要素」

要旨：作品が描き出した現実の中でのロマンティックな要素がいかに使われているかを考察する

坂巻朋美(10:20)

タイトル：「*The Lifted Veil*: Reality を映し出す Unrealistic elements」

要旨：George Eliot(1819-1880)によって書かれた *The Lifted Veil* (1859)では、Romantic・Gothic・Supernatural という3点の unrealistic elements が含まれている。ここでは、これら3点の unrealistic elements が何を表しているのかを考察していく。

渡辺賢二(10:40)

タイトル：「ファンタジーに見るリアリティー」

要旨：Fantasy というジャンルに大きな影響を与えた George McDonald の短編作品 "The Light Princess"に見る reality と sexuality

グループ2 (11:10~11:50)

テーマ：「*A Room of One's Own* とその後 Woolf と Lessing の女性像」

内容：Virginia Woolf は「女性が小説なり詩なりを書こうとするなら、年に500ポンドの収入とドアに鍵のかかる部屋を持つ必要がある。」と *A Room of One's Own*(1929)の中で述べている。この見地に立って Woolf がその後描いた女性像に焦点を当てるとともに、女性が自由に使えるお金と自分の部屋を手に入れた後に直面することになる問題を Doris Lessing の処女作 *The Grass Is Singing*(1950)の Mary の死の原因に見ていく。

山崎修平(11:10)

タイトル：「*The Waves* における3人の女性の役割」

要旨：*A Room of One's Own* 後に出版された作品 *The Waves* で、Woolf は女性の生き方を作品にどのようにして表現し、どのような意味を持たせたのかを考察していく。

四戸慶介(11:30)

タイトル：「金と自分の部屋を手に入れた女性」

要旨：女性が自由に使えるお金と自分のいた部屋を手に入れたその後に直面することになる問題を、Doris Lessing の処女作 *The Grass Is Singing*(1950)の Mary の死との関係性に見ていく。

グループ3 (15:10~16:10)

テーマ：「階級への挑戦 Brontë, Hardy, Sillitoe を中心に」

内容：イギリス社会における「階級」と時代背景、社会背景の異なる三作品、*Jane Eyre*、*The Mayor of Casterbridge*、*Saturday Night and Sunday Morning* との関係性を考察する。

橋本千春(15:10)

タイトル：「階級から見る Jane の自立」

要旨：Charlotte Brontë の *Jane Eyre*(1847)を取り上げ、主人公である中産階級の Jane がどのようにして自立を勝ち取ったのかをヴィクトリア朝時代の一般的な中産階級の女性の生き方と比較し、考察していく。

倉田綾香(15:30)

タイトル：「*Saturday Night and Sunday Morning* における階級意識」

要旨：現代イギリス社会における「階級」と「個人」の関係性を Alan Sillitoe の作品 *Saturday Night and Sunday Morning* を通して考察していく。

吉武江梨(15:50)

タイトル：「階級と価値観の関係性」

要旨：19世紀のイギリス社会における階級と価値観の関係性を、Thomas Hardy の作品 *Mayor of Casterbridge* の主人公 Michael Henchard の生涯を通して考察していく。

グループ4 (16:20~17:00)

テーマ: "Searching for Identity: Second- Generation Asian Immigrant Authors of the US and the UK with a Special Reference to Amy Tan and Hanif Kureishi"

内容: 中国系米国人作家 Amy Tan とパキスタン系英国人作家 Hanif Kureishi の自伝的要素の濃い作品 *The Bonesetter's Daughter* と *The Buddha of Suburbia* を読み解き、二世移民の主人公がそれぞれ英国と米国で生まれ、移民の子として育った自身の ethnic identity をいかにして模索し、見つけていったのかを考察する。

吉田重人(16:20)

タイトル: *The Buddha of Suburbia: Born and bred in England*

要旨: Kureishi の自伝的作品 *The Buddha of Suburbia* の主人公 Karim はインド人の父と英国人の母の間に生まれた。英国人としての自覚と肌の色からアジア人として見られる差異に夜生じる葛藤と真の identity を模索する Karim の行き方を考察する。

翁珠(16:40)

タイトル: "Conflicts and Conciliation in *The Bonesetter's Daughter* by Amy Tan"

要旨: This is Amy Tan's fourth novel about the mother/ daughter relationship. An American-born woman Ruth Young finds two packets of writings in Chinese calligraphy and learns that they are the memoirs of her Chinese mother Luling Young, who suffers from memory loss and has written down stories of her past life in China before her disease breaks out. I discuss Ruth spiritual journey to understand her double culture backgrounds through searching for the identity of her grandmother, Precious Auntie.